

**「新しい東北」官民連携推進協議会
令和 年度 第一回意見交換会**

福島県

6月5日

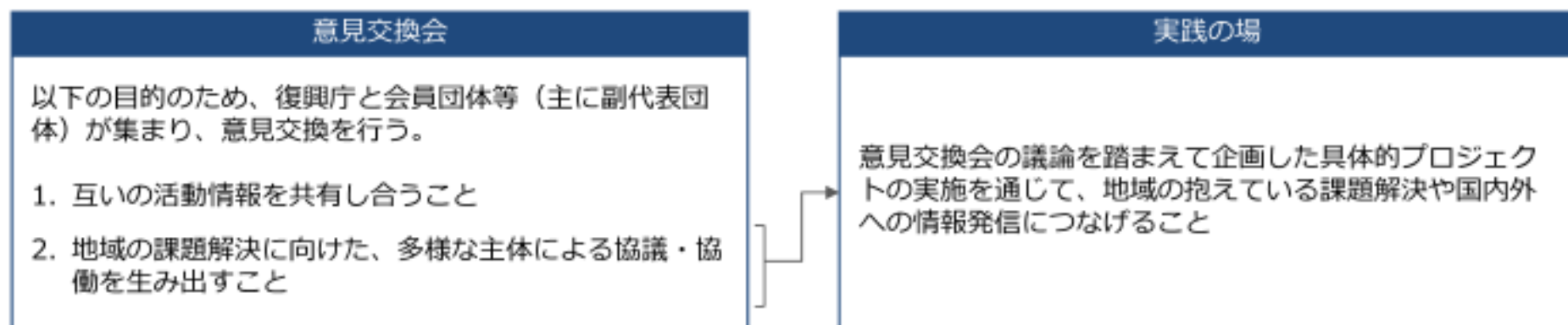
株式会社JTBコミュニケーションデザイン

● 3県での意見交換会・実践の場の開催

意見交換会・実践の場の概要

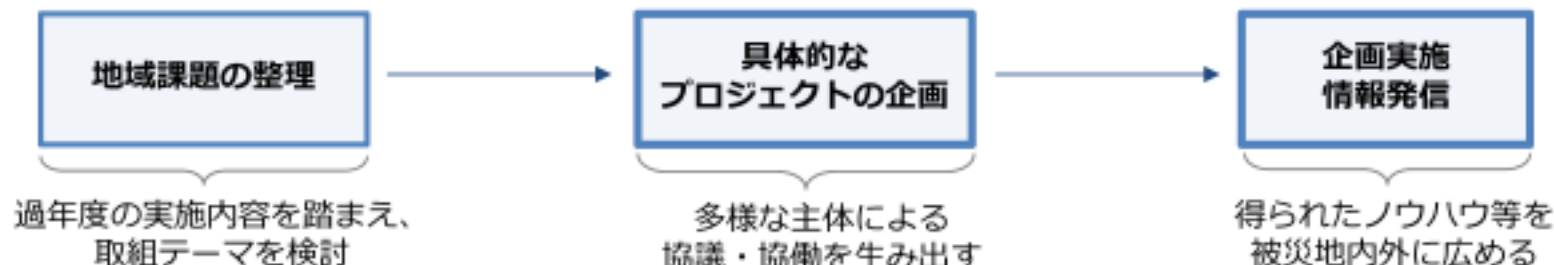
3県それぞれに過年度からのテーマを継続しつつ、今年度は能登半島地震やその他自然災害等からの復興の際の参考となるようイベントを企画実施する。

■ 意見交換会・実践の場とは



■ 今年度の概要

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- ・ 具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、多様な主体による協議・協働を生み出す
- ・ イベントを実施しただけで終わるのではなく、地域や被災地外にノウハウ等を残すことができる発信を行う



● 「新しい東北」 官民連携推進協議会とは

- 東日本大震災からの復興を契機とした地域課題を解決するための取組みを東北の持続的な活力に結び付けていくことを目的として、幅広い担い手が、互いの取組みに関する情報を共有し、連携・協働することができる体制を構築するために設立された協議会。
- 各県での意見交換会では、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が集まり、以下を目的とした意見交換を行う。
 - ① 互いの活動情報の共有
 - 各副代表団体には、各意見交換会での情報共有をお願いしたい。
 - ② 地域の課題解決に向けた、多様な主体による協議・協働の創出
 - 「実践の場」として、具体的なプロジェクトを企画・実施。
 - 各副代表団体には、各意見交換会で、今年度のテーマや取組み内容について、ご意見をいただきたい。

実施日 実施先	令和6年									令和7年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
岩手県		事前ミーティング	第1回		事前ミーティング	第2回		事前ミーティング		第3回		
宮城県			第1回			第2回				第3回		
福島県			第1回			第2回				第3回		

● 3県での意見交換会・実践の場の開催

岩手県での取組

第1回 意見交換会 7月4日(木)

- 各団体の活動紹介
- 令和6年度のテーマ、取組み内容等について

(意見交換内容)

- 内陸部と沿岸部の交流を目的とした実践の場企画
- 震災の記憶風化を課題とした招待状ワークショップについて

第2回 意見交換会 10月10日(木)

- 各団体の活動紹介
- 令和6年度の実践の場実施に向けた検討

(意見交換内容)

- 今年度の企画案の再確認
- 副代表団体からの参加者募集
- 岩手県沿岸部の訪問箇所の案出し

実践の場 12月7日(土) 8日(日)

岩手さんりくを探索！YOUTH特派員
・三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る
内陸部学生（盛岡第一・第三高校）が沿岸部動画取材を題材として取材構成を自ら構成し、考案しながら沿岸部被災状況や現状を学び、現地の方が頑張っている姿を探索することで沿岸部との繋がりを強めること

第3回 意見交換会 1月22日(水)

- 各団体の取組紹介
- 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換

(意見交換内容)

- 今年度企画の良かった点／反省点・改善点
- 次年度の取組方針／継続実施に向けた検討

■ 実践の場の企画背景

【背景・目的】

- 震災から14年が経過する中、震災直後にあった内陸部から沿岸部への支援や交流が徐々に減少。また、特に若年層において震災の記憶が風化。岩手県の内陸部の学生・若者に三陸沿岸の復興の姿や魅力を知っていただくため、学生・若者自身が、三陸沿岸の事業者を取材し、三陸沿岸を紹介するオリジナルの動画を作成する企画を実施。
- 2025年大阪・関西万博をフックに県内学生と連携して地域内外の誰かに向けた招待状作成のワークショップを開催。東京での個別イベント展示や万博100日前イベントで登壇者発表も実施。

■ 実践の場の開催概要

岩手さんりくを探索！YOUTH特派員/招待状作成ワークショップ

- 日時：2024年12月7日(土)・8日(日)
場所：久慈～田野畑／宮古～釜石／陸前高田～大船渡の3エリア
参加者：岩手県内高校生（盛岡第一・第三高校）8名
- 「事前ワークショップ」計5回開催
(10/17,10/20,10/31,11/22,11/28)
震災復興に関する講話や、取材先の検討・確認。当日感想等を現地事業者等に直接フィードバックする「振り返りミーティング」も合わせて開催。
- アウトプットでは、YouTube動画・読売中高生新聞発行による外部へのアピールにもつながったという意見あり。
- 招待状作成ワークショップ
岩手大学4名・平舘高校1名・盛岡第三高校2名・不来方高校6名に参加いただき、3回のワークショップを通じて、地元の魅力発信を行う招待状の作成し、発表。
- 2025年大阪・関西万博100日前イベント(2025/2/11)
開催場所：高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設（陸前高田市）
岩手大学生4名に参加頂き、地元の魅力発信を行う招待状の発表。
※TV5社・WEB3社 関係記事掲載



● 3県での意見交換会・実践の場の開催

宮城県での取組

第1回 意見交換会 7月3日(水)

- 各団体の活動紹介
- 令和6年度の取組方針、取組み内容等について

(意見交換内容)

- 関係人口拡大（学生・インバウンド顧客）誘客を図る企画案
- 宮城県の魅力発信を行う招待状作成ワークショップについて

第2回 意見交換会 10月8日(火)

- 各団体の活動紹介
- 令和6年度の実践の場実施に向けた検討

(意見交換内容)

- インバウンドの多様性を鑑みた評価検証を行うモニターツアー（実践の場）について
- 招待状作成協力校の依頼について

実践の場 12月21日(土)

STAND OUT宮城 ～視察地評価～

既存観光コンテンツのインバウンドに対する魅力を外国人と共に検証、評価し、アップデートを促進させ、磨き上げと同時に商品造成の礎とすること

第3回 意見交換会 1月24日(金)

- 各団体の取組紹介
- 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換

(意見交換内容)

- 本年度の取組（実地調査を含めた考察／県内高校と連携した招待状作成）の良かった点／反省点・改善点
- 次年度の取組方針／各団体の連携内容

■ 実践の場の企画背景

【背景・目的】

- 宮城県では震災から復興を遂げ、今後は個人旅行者・インバウンド客を含めた交流人口拡大を最重要目標に効果的な情報発信を行うべく、取組を実施。
- 観光資源、震災と復興軌跡を学び、震災の風化を防ぐため、既存観光コンテンツの磨き上げを行い、インバウンドをターゲットに訪れてもらう取組
- 2025年大阪・関西万博をフックに県内高校生と連携して地域内外の誰かに向けた招待状作成のワークショップを開催。東京での個別イベント展示や万博100日前イベントで登壇者発表も実施。

■ 実践の場の開催概要

STAND OUT宮城/招待状作成ワークショップ

- 日時：2024年12月21日（土）
場所：仙台駅西口TKPビジネスセンター
参加者：約30名
訪日外国人向けモニタリングツアー 3本を試行。（仙台・松島エリア・石巻・女川エリア・気仙沼・南三陸エリア）3コースに、東北大学・宮城学院女子大学7名の大学生と県内在住外国人15名が分かれて、魅力検証を実施。
- 「事前ミーティング等」計5回開催
ガイド役：学生7名（東北大学4名・宮城学院女子大学3名）
モニター：県内在住外国人15名
（11/9,11/14,12/13,12/14,12/17）
- 招待状作成ワークショップ
県内唯一の災害科を持つ宮城県立多賀城高等学校の学生10名に参加いただき、3回のワークショップで招待状を作成。
- 2025年大阪・関西万博100日前イベント（2025/2/9）
開催場所：みやぎ東日本大震災津波伝承館（宮城県石巻市）
多賀城高校1年生5名が地元の魅力発信を行う招待状の発表。
※TV3社・WEB5社 関係記事掲載



● 3県での意見交換会・実践の場の開催

福島県での取組

第1回 意見交換会 6月28日(金)

- 各団体の活動紹介
- 令和6年度の取組方針、取組内容等について

(意見交換内容)

- 今年度の企画の進め方(運営委員会方式)について
- 副代表団体が開催するイベント等との連携について

第2回 意見交換会 10月9日(水)

- 各団体の活動紹介
- 令和6年度の取組方針、取組内容等について
- 実践の場について

(意見交換内容)

- 運営委員会における議論状況について
- プログラム終了後の事後展開について

実践の場 2月17日(月)～19日(水)

“ふるさと愛”プロジェクト
福島の過去と未来に出会う
3グループに分かれて地元で活躍している事業者や語り部から話を聞き、交流することで福島の人々の魅力を感じ、より関心を深め、継続的に福島との繋がりを感じられる活動の場を提供する。

第3回 意見交換会 2月26日(水)

- 各団体の取組紹介
- 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換

(意見交換内容)

- 本年度の取組の良かった点／反省点・改善点
- 次年度の取組方針／継続実施に向けた検討

■ 実践の場の企画背景

【背景・目的】

- 令和4年度より、「J-VILLAGE」を舞台に県内外の若者たちが「福島の未来と魅力」をテーマに、ふるさと愛を共有するイベントの実施
ふるさと愛の拡大、参加者が継続的に福島へ関心を持ってもらう環境づくり、浜通りの観光・移住・起業へ繋がるプログラムの構築を行う。
福島の復興に向けて果敢にチャレンジする地元の方々との交流や、現地でのフィールドワーク等を通して“福島の魅力”を発見し、「ふるさと愛」について考える取組を企画。
- 2025年大阪・関西万博をフックに運営委員会と連携して地域内外の誰かに向けた招待状作成のワークショップを開催。東京での個別イベント展示や万博100日前イベントで登壇者発表も実施。

■ 実践の場の開催概要

“ふるさと愛”プロジェクト 福島を過去と未来に出会う

- 日時：2025年2月17日(月)～19日(水)
場所：福島県双葉郡
参加者：27名(県内学生：8名、県外学生：19名)
運営委員会メンバー(福島大学・福島工業高専・東京大学・岡山大学・長崎大学)
協力事業者：11事業者
- 参加学生目線の魅力ある企画にする観点から、7月より運営委員会を設立。学生7名による運営委員会が全6回にわたって企画案を議論。(8/29.9/20.10/25.11/29.12/20.1/17)
- 2泊3日で、「ふるさと」をトークテーマに1対1での対話を繰り返すワークショップや参加学生等には是非会ってみたい“ふくしま”な人との交流を実施。訪問・交流を通して感じた参加者の想いを盛り込んだパネルを事業者ごとに制作。ポスターセッション形式で発表。
- 招待状作成ワークショップ
運営委員会メンバーに参加いただき、4回のワークショップで招待状を作成。
- 2025年大阪・関西万博100日前イベント(2025/2/8)
開催場所：東日本大震災・原子力災害伝承館(福島県双葉郡双葉町)
福島工業高専学生1名が地元の魅力発信を行う招待状の発表。
※TV2社・WEB3社 関係記事掲載



● 令和7年度 活動方針

【新しい東北官民連携推進協議会】

- ✓ 全国への普及展開が期待されているため、
令和8年度から「新しい東北」復興ノウハウ連携協議会への名称変更を予定。

【3県での意見交換会・実践の場】

- ✓ 首都直下や南海トラフエリアの若者が東北の被災地を訪れてほしいという議論が国会であったことから、今回の岩手県実践の場では能登地域の若者に、宮城県では東南海地域の若者にもご参加頂き、地元の皆さんとの情報共有を図る取組を行ないたい。また、第2期復興・創生期間（令和3年度～令和7年度）における取組を中心に、他地域の参考となる官民等の連携による取組事例の抽出を行い、能登周辺でのセミナーを開催することとしたい。

【「新しい東北」復興・創生の星顕彰】

- ✓ 継続実施。併せて、震災伝承部門を創設した。

【 Fw: 東北 Fan Meeting 】

- ✓ Fw: 東北 Fan Meetingは、復興ノウハウ講演会等に名称を変更するとともに、復興に関する課題やノウハウ・知見の情報交換等を行う場として実施する。

【地域づくりネットワーク】

- ✓ 平成29年度～令和6年度の地域づくりハンズオン支援事業で得られたノウハウ・ポイントを整理したハンドブックを活用するとともに、従前通り、地域づくり団体からの応募を受けつつも、語り部団体ハンズオン支援への名称変更を行った。

● 本年度のテーマ

これまで官民連携推進協議会では、震災後の復興に関する知見を整理し、広く発信してきました。2025年度は民間移行を控えた節目の年となり、「人」が果たしてきた役割をあらためて見つめ直し、それがどのように未来へとつながるのかを整理し、発信していくことが求められます。

「つながりのその先へ。」

上記が、本年度の事業推進のテーマと我々が定めるキーワードです。このテーマには、これまでに築き上げてきた“官民の連携”や“地域のつながり”を未来へと発展させ、新たな可能性を創出する、という想いが込められています。

今年度は本事業を通じて、これまでの取組を総括し、復興の知見を全国そして未来へと継承すること、を目指してまいります。

● 基本方針

■事業目的

本事業は、過年度に岩手県、宮城県及び福島県で実施したイベントの開催状況、令和7年度に実施予定の各県の意見交換会での議論等を踏まえて、令和7年度のイベントを企画・実施するとともに、実施に当たってのノウハウを取りまとめ、もって、地域課題の解決や各県の各種団体の連携・協働、国内外への情報発信につなげることを目的とする。

※協議会が発足し13年目となる本取組の集大成として、これまで実施してきた活動のノウハウを整理し国内外へ発信することに加え、本取組“防災に対する意識”を風化させない新たな枠組みを構築することを本事業の基本方針に据える。

基本方針①：ノウハウの整理・発信

- ・ 岩手県、宮城県、福島県で官民が議論を重ね、連携して取り組んできた地域課題の解決や連携、情報発信のノウハウを整理する
- ・ 整理にあたっては、各県の連携復興支援センターを中心とした主要プレイヤーに対するヒアリング、各種資料の整理を行いアーカイブ化する
- ・ アーカイブ化した資料を3県合同報告会で公表し、これまでの取組を「知見」として発信する

基本方針②：「防災意識の風化防止」に向けた民間主導の枠組みの構築

- ・ これまでの取組のうち、情報発信効果が高かった「高校生・大学生」との連携を防災意識の風化を防ぐ取組に昇華させる
- ・ 新たに「防災意識の風化防止」に賛同する民間企業を募り、民間主導による取組へと発展させるための初年度取組、とする
- ・ メッセージ性の強い取組とすることに加え、SNSによる、より広範囲への拡散効果が期待できる取組とする

● 1. 年間スケジュール

		(1) 岩手県におけるイベントの企画・実施	(2) 宮城県におけるイベントの企画・実施	(3) 福島県におけるイベントの企画・実施	(4) 過年度までの取組の継続及び優良事例の他 地域への展開	(5) 岩手県、宮城県、福島県における意見交換 会実施に係る事務補助業務			
4月		連絡体制の構築・情報の集約							
5月	1週目	事前準備	事前準備	事前準備					
	2週目								
	3週目								
	4週目								
	5週目								
6月	1週目	第1回意見交換会			事前準備	実施報告			
	2週目								
	3週目								
	4週目								
	5週目								
7月	1週目			運営委員会①【7/7～11】					
	2週目								
	3週目								
	4週目	ワークショップ【7/22～25】							
	5週目	ワークショップ【7/28～31】							
8月	1週目			運営委員会②【8/4～8】	取材	講演台本等作成			
	2週目								
	3週目								
	4週目								
	5週目								
9月	1週目			運営委員会③【9/8～12】					
	2週目								
	3週目	第2回意見交換会【9/16～19】							第2回意見交換会【9/22・24】
	4週目								
	5週目								
10月	1週目		フィールドWS【10/1～3】	運営委員会④ ふるさと堂プロジェクト実施 【10/14～17】		実施報告			
	2週目	フィールドWS【10/6～10】							
	3週目								
	4週目								
	5週目								

● 1. 年間スケジュール

		(1) 岩手県におけるイベントの企画・実施	(2) 宮城県におけるイベントの企画・実施	(3) 福島県におけるイベントの企画・実施	(4) 通年度までの取組の総括及び優良事例の他 地域への展開		(5) 岩手県、宮城県、福島県における意見交換 会実施に係る事務補助業務
1 1 月	1週目	イベント実施「動画公開」			取 材	演 習 台 本 等 作 成	
	2週目						
	3週目						
	4週目						
	5週目						
1 2 月	1週目						
	2週目						
	3週目						
	4週目	【A案】3県合同セミナー【12/20or21】					
	5週目						
1 月	1週目						
	2週目	【B案】3県合同セミナー【1/10or11】					
	3週目						
	4週目						
	5週目	第3回意見交換会【1/29～30】					
2 月	1週目						
	2週目						実施報告
	3週目						
	4週目						
	5週目						
月 3		報告書の提出					

● 2. 3県合同セミナーの内容（案）

過年度までの取組・総括を“3県合同＋他地域の展開”を目的に、能登復興支援センターと連携し、能登地域において、3県合同セミナーを開催する。

復興から14年、現在まで3県で積み上げてきた知見と復興途上である能登地域の現状・課題を共有することで、新しい東北の優良事例を活用し、情報共有を実施する。

いままでの取組をまとめた映像および講演資料を活用して実践にうつす。

つながりのその先へ ～震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ～

- 日時 : 2025年12月 13:30-16:00(開場 13:00)
- 会場 : 石川県輪島市市内(※能登空港を想定) ※一般来場化
- 背景 : 東日本大震災の復興を通じて、岩手・宮城・福島の前では官民連携によるさまざまな取り組みが行われてきた。これらの取り組みを共有し、能登地域における震災復興の参考となるよう、3県合同の発表会を開催する。これにより、震災の知見を全国へと発信し、未来の防災・復興へつなげることを目指す。
- 概要 : **第1部:官民連携の知見を未来へ**
今年度の3県合同報告会では、3県での取組を発表し、動画をお披露目する。さらに、復興の知見を整理し、全国での共有・活用方法を紹介。実践の場で活動した高校生・大学生の発表も行い、次世代へつなぐ取組として展開する。

第2部:あの時の私に伝えたいこと
3県で実施したイベントの映像をまとめ、震災後の歩みや未来へのメッセージを収録。これを映像と紙の資料として編集し、地域の人々の声を次世代に伝承する。
- 主催 : 「新しい東北」官民連携推進協議会
- 共催 : 各県関連団体
- 連携先: 能登復興支援センター
- 協力 : 各県の復興支援センター、地域住民、専門家、実践の場に参加した高校生・大学生

● 3. 福島県の実践（案）

8～10月に学生を対象とした実践の場を設け、デフリンピックでのアウトプットを目指します

企画案

方針

「ふるさと愛」をテーマに、ふくしまの未来の姿を考えるためのフィールドワークを浜通りで実施。ワークショップの参加者や地域創生に興味のある学生が地元の地域事業者等と交流し、2泊3日のフィールドワークを通じて「ふるさと愛」について深く考える。

企画概要

2025年度に開催される“デフリンピックサッカー競技”の開催を契機に集う人たちに対し、福島の魅力の発見や福島の魅力的な情報を如何にして伝えるか、をテーマに動画制作。未来の担い手たちが共に学び、地域の発展に貢献するための実践的なアイデアを共有する。

■25年度デフリンピックで集う人への「ふるさと愛」をどう伝えるか

基本テーマをベースにどうアウトプットするか？

- 動画による発表会
- WEB記事 ○冊子制作
- 商品開発

地域事業者にもメリットのある内容に

- 地域事業者の商品の販売
- まちづくり団体インターンシップ
- 周辺観光 ○復興の今を情報発信

■東京2025デフリンピックは2025年11/15～26の開催（場所は東京都/デフサッカーは福島県）

※デフリンピック サッカー競技実施に際して

デフリンピックのサッカー競技は、共生社会の実現を体現する場であり、福島未来を考える上で貴重な機会であると考えます。聴覚障がい者の選手たちが、互いに理解し支え合いながら最高のパフォーマンスを発揮する姿は、震災を乗り越えてきた福島の人々の挑戦と重なる。我々はまさにこの大会を、福島の実践の場、として活用したく、そこで共生社会の意義を広く発信するとともに、地域と世界をつなぐ新たな交流の場を創出したいと考えます。

本プロジェクトにおいて議論・検討された内容については、単にイベント単体のアウトプットとして捉えずに、主催であるや地域の事業者にとって、インターハイ等を含めた、2026年度以降も継続して有効に活用できるモノ・コトとしてのアウトプットを目指す。

GOAL

本プロジェクトに参加した全国の学生・若者達が、将来的にも様々な形で福島に関わってくれようようなモチベーション形成の機会となることを目指す

● 3. 福島県の実践（案）

イベントテーマ(案)： 福島「ふるさと愛」プロジェクト 2025 ～未来への架け橋～

①目的

- 震災当時に高校生だった30代の方々が、今だからこそ伝えられる想いや学びを記録し、次世代へと継承する。「ふるさと愛」をテーマに、目指したい・目指すべき未来の姿を考える場を設ける
- 福島の魅力为全国の若者に発信し、県内外の若者同士の交流を促進する。浜通りを舞台に、現地事業者や住民との対話を通じて、福島の「ふるさと愛」を深める。

②事前学習

- 震災当時の福島県の状況や復興の歩みについて学ぶ
- 取材対象となる30代の方々の職業や復興への関わりを事前調査する
- 「ふるさと愛」をテーマに、福島の地域課題や魅力について議論する

③実践の場

- 県内外の学生が集まり、「ふるさと愛」をテーマに未来の福島について意見交換を行う
- 取材で得た学びをもとに、地域の課題や魅力を整理し、「福島の未来像」を議論する
- 福島の魅力発信に向けた具体的な企画(観光、地域振興、防災教育など)を検討
- 開催される「デフリンピック サッカー競技」を利用し、世界に向けた発信を行う

④期待される成果

- 震災の経験と「ふるさと愛」の大切さを次世代に伝える機会を創出する
- 県内外の学生同士が交流し、福島の未来について考える場を構築する
- 映像や記事をアーカイブ化し、防災・復興教育や観光コンテンツとして活用する

本イベントは、「ふるさと愛」という視点から福島の未来を考える場を提供します。

浜通りを拠点に、学生たちが取材・議論・発信を行い、世界へ発信する機会を創出することで、持続可能な交流人口の拡大につなげていきます。

● 3. 福島県の実践（案）

◆第1回意見交換会(6月):企画原案の報告・意見交換

○目的

- ・ 令和7年度の実践の方向性を確認し、取材・アーカイブ化の基本方針を策定
- ・ 震災経験者(30代)の語り部の選定方法を検討する
- ・ 大学生が取材を通じて学ぶべき視点を整理し、事前学習の内容を確定する
- ・ Jヴィレッジで開催される「デフリンピック サッカー競技」での世界に向けた発信内容の検討

○議論のポイント

- ・ 県内外の学生が集まり、「ふるさと愛」をテーマに未来の福島について意見交換を行う
- ・ 取材で得た学びをもとに、地域の課題や魅力を整理し、「福島の未来像」を議論する

◆運営委員会①(7/7～7/11):学生参加 ※オンライン

- ・ 本年度実施内容の共有
- ・ 事前学習の一環として、震災当時の状況や復興の歩みについてオンライン講義を実施
- ・ 取材対象となる方々について事前リサーチを行う

ふるさと愛プロジェクトメンバー
昨年度メンバーをベースに参加
10～20名程度

◆運営委員会②(8/4～8):学生参加 ※オンライン

- ・ 取材先と取材テーマの決定
- ・ 一般大学生を対象とした参加者募集方法の決定
- ・ ふるさと愛プロジェクト当日の内容検討

ふるさと愛プロジェクトメンバー
昨年度メンバーをベースに参加
10～20名程度

◆運営委員会③(9/8～12):学生参加 ※オンライン

- ・ 取材先調整結果の共有
- ・ ふるさと愛プロジェクト当日の内容決定

ふるさと愛プロジェクトメンバー
昨年度メンバーをベースに参加
10～20名程度

● 3. 福島県の取組（案）

◆第2回意見交換会(9/22・24):企画の調整状況の報告・意見交換

○目的

- ・ 福島の魅力発信に向けた具体的な企画(観光、地域振興、防災教育など)を検討
- ・ フィールドワークの取材先の決定と共有

○議論のポイント

- ・ インタビューの進め方の最終確認映像・記事の制作方針決定
- ・ Jヴィレッジ開催「デフリンピック サッカー競技」を利用し、世界に向けた発信内容の検討

◆ふるさと愛プロジェクト実施(10/14～17 うち2泊3日):学生参加

- ・ 大学生が沿岸部に赴き、対象者への取材を実施
- ・ 映像・記事制作のための編集作業を行う
- ・ 初日は全員で浜通りの視察、二日目は取材、三日目は動画編集(構成案まで)
- ・ デフリンピック サッカー競技での世界に向けた発信内容の検討

ふるさと愛プロジェクトメンバー
昨年度メンバーをベースに参加
3～4チーム程度 計15～20名程度

◆動画公開(11月)

- ・ Jヴィレッジで開催される「デフリンピック サッカー競技」を利用し、世界に向けた発信(※調整中)

◆第3回意見交換会(12月～1月):企画の実施報告・意見交換

○議論のポイント

- ・ 取材を通じて得た学びの整理
- ・ 発表内容の評価と改善点の洗い出し
- ・ コンテンツの活用と今後の展開

● 4. 議論のポイント

1. 3県合同セミナーに対してのご意見
2. 本年度の取組内容に対するご意見
3. 取組を進めるうえでの確認事項
 - ・ 取材・動画制作の基本方針を策定
 - ・ 運営委員会の早期開催
 - ・ 震災経験者(20～30代)の選定方法を検討

● 参考資料：岩手県の実践（案）

イベントテーマ(案):「あの時の私に伝えたいこと」

①目的

- 震災当時に学生だった20～30代の方々が、今だからこそ伝えられる想いや学びを記録する。震災の経験を風化させず、次世代へ知見をつなぐ
- 内陸部の高校生・大学生が沿岸部のリアルな復興の現場を知り、地域の未来について考える機会を創出する

②取材の流れ

オリエンテーション(事前学習)

- 震災当時の岩手県沿岸部の被害や復興の歩みについて学ぶ。取材対象となる方々の職業や復興への関わりを事前調査する
現地取材(フィールドワーク)

- 対象:沿岸部で働く20～30代の方々(漁業関係者、観光業、行政職員、NPOスタッフなど)
- インタビュー内容:震災当時、どのような経験をしたか?どのように復興に関わってきたか?「当時の自分」に伝えたいことは?
ワークショップ(振り返り)
- 取材を通じて感じたこと、学んだことをまとめる、取材内容を映像・文章で整理し、次世代に伝えるコンテンツを作成する。

③イベント実施

- 学生たちが取材をまとめた映像や記事を地域フォーラムで発表。地域住民や他の高校生・大学生と意見を交わし、震災の記憶を未来へつなぐ。

④期待される成果

- 震災当時の若者が、どのように復興に関わり、何を感じてきたのかを次世代に伝える機会を創出
- 内陸部の学生と沿岸部の若者との交流を促進し、地域のつながりを強化
- 映像や記事をアーカイブ化し、防災・復興教育に活用

**本イベントは、震災の教訓を「人の言葉」として次世代に継承し、
未来の地域づくりに活かすことを目的とします。**

● 参考資料：宮城県における取組（案）

イベントテーマ(案):「あの時の私に伝えたいこと」～語り部の証言を未来へつなぐ～

①目的

- 震災当時に高校生だった30代の語り部の方々を取材し、震災の経験と教訓を記録する
- 震災の記憶を風化させず、デジタルアーカイブとして保存し、次世代に継承する
- Google Map上に動画を掲載し、国内外の人々がいつでも震災の記録を閲覧できるようにする
- 語り部のストーリーを発信し、観光資源や教育コンテンツとして活用する

②取材の流れ

- 震災当時の宮城県沿岸部の被害や復興の歩みについて学ぶ
- 語り部の方々の背景や活動について事前調査を行う

③デジタルアーカイブ制作(Google Mapへの掲載)

- 取材したインタビューを編集し、各語り部の証言を動画化
- Google Map上にポイントを設定し、震災の現場ごとに証言動画をリンク
- 地域住民や観光客、防災教育関係者がアクセス可能なオンラインアーカイブを構築
- 実践の場で取材した動画とGoogle Mapへの登録内容を発表するプレゼンテーションを実施

④期待される成果

- 震災の記憶をGoogle Map上に記録し、未来へと残す新しい形のデジタルアーカイブを構築
- 震災当時の証言を整理・保存し、語り部活動の継続的な支援につなげる
- 教育や観光の場面で活用し、防災意識の向上と地域活性化を促進する
- 国内外の防災研究や教育機関に向けて、宮城県の震災記録を発信する

震災を経験した語り部の方々を学生が取材し、その証言をGoogle Map上に動画で掲載するという
新たな試みを実施します。

震災の記憶を未来へとつなぐデジタルアーカイブを構築し、
教育・観光・防災の各分野で活用できる資源として発信していきます。